

利用時品質(Quality-in-use)モデルの策定

- システムを利用したときの**ステークホルダ**（直接ユーザ、顧客、運用者、公共・社会）への影響を品質と捉え、品質特性・副特性を定義し、**利用時品質**としてモデル化
- 従来は主に直接ユーザを対象とし、利用時品質をユーザビリティと同等と扱っていたが、多様化したステークホルダに対応すべく、**モデルを再構築**
- 品質特性の一つとして「**社会的受容性**」を設定。AI技術を用いた製品やシステム等の開発時の品質指標となりうる

人=ロボット関係の文化差を浮世絵から読み解く

- 人とロボットの構図に見られる**文化差**に、浮世絵に描かれた母子像の分析（**第三項共視論**）を援用することで、日本ではロボットを幼児に準ずる存在として認識している可能性を見出した
- テクノアニミズム**論と合わせて考察し、**日本の文化特性**がロボットやAIとの共生社会の規範構築に独特の貢献ができる可能性を論文化（AI&Society誌）
- テクノアニミズム論をさらに発展させるため、梅棹忠夫を始めとする思想的源流をさらに探求

